

ふいんてっく通信

～ Vol.5 ～

現金からキャッシュレスへ、鉄道交通編

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です



「フィンテック、キャッシュレスって、よく分からないから使いたくない」といった声を聞くことがあります。でも、日常生活で現金を使わずに会計を済ませた経験があるのではないのでしょうか。今回は、鉄道交通のフィンテックをご紹介します。

■ タッチ・アンド・ゴー！！

1960年代、駅員が手作業で紙の切符を切っていた頃、通勤ラッシュ時の混雑解消を目的に、磁気式切符の記録情報を読み取る自動改札機の開発が始まり、1970年代に関西圏の鉄道網を中心に導入されました。ちょうど、銀行のキャッシュカードやクレジットカードなどが普及し始めたころです。

【切符からICカードへ】



※写真はイメージです

相互直通運転など鉄道網が複雑で情報量が多い関東圏は、記録容量を増やす開発に時間を要したため、遅れること1990年代に本格導入されました。

現在、多くの方が利用している鉄道系ICカードは、自動改札機の導入が開始された1980年代から開発が進められ、2000年代に本格導入されました。これにより・・・

✓ 利用者は、自動改札機に“タッチ”するだけで改札機が通過でき、乗り越しても自動精算される

✓ 鉄道会社は、不正乗車防止や改札・窓口での運営管理費用が削減できるなどのメリットが享受できたのです。

■ ますます便利になる交通系ICカード

磁気式の切符や定期券は、混雑解消や運営管理費低減に効果を発揮したのですが、水に弱く、磁気が弱まると使えなくなることに加え、スキミング(記録情報を抜き取られること)されやすい欠点がありました。

そこで登場したのが、IC(集積回路)が組み込まれたカード「ICカード」です。扱える情報量が格段に増え、データは暗号化されるので偽造が難しい、といった利点があります。

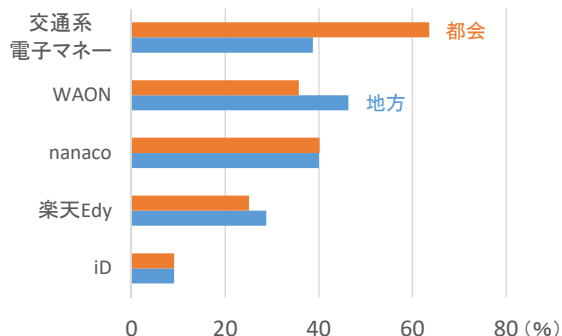
この利点と通信インフラの融合で、ネット上で新幹線のチケットなどを予約・決済しておけば、ICカードを“タッチ”するだけで改札機を通過することもできるようになったのです。

もちろん、電子マネー機能付きなので、お買い物の支払いにも使えます。カードタイプの電子マネーの中では、交通系ICカードの利用が多い、といった調査結果もあります。

交通系ICカードは、フィンテックの技術が存分に活かされ、日常生活に浸透しているのです。

【利用しているカードタイプの電子マネー】

(上位5サービス、2018年5月調査)



出所: MMD研究所の情報を基に日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントがフィンテックに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。